冬の夜の歌

森川義信

青空文庫

私は墜ちて行くのだ
破れた手風琴の挽歌におくられて
古びた天鵞絨の匂ひに噎び
黝い霧に深く包まれて
ゆふぐれの向ふへと私は墜ちて行くのだ

今はこの掌に触れた蒼空もなく
胸近く海のやうに揺れた歌声も——
どうしたのだ私の愛した小さくて美しかつたものよ
小鳥たちよ　草花たちよ　新月よ　青い林檎よ

しきりに眩暈がおしよせる心には
悔恨が一本の太い水脈となり——
陰鬱な不協和音が青く戦き
狂つたヴイオロンが駈け廻り
すべては白蝋石の上に痙攣し

腐蝕した玻璃の破片が暗黒の空間に飛散するのだ
ああ　遂に今　若い肋骨さへ噛み穿つ
寒々と冴えた牙の戦慄よ

青空文庫情報

底本：「増補　森川義信詩集」国文社
　　1991（平成3）年1月10日初版発行
初出：「早稲田派」
入力：坂本真一
校正：フクポー
2017年11月24日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

冬の夜の歌

森川義信

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/